

## 日本がん疫学研究会

### 第14回日本がん疫学研究会を終えて

第14回日本がん疫学研究会  
会長 稲葉 裕  
(順天堂大学医学部衛生学教室)

東京では観測史上最も早い熱帯夜であった6月13日(木)第14回日本がん疫学研究会が、順天堂大学有山記念講堂において開催された。

今回のテーマは、「がんと先行疾患」であった。前回、前々回と「ライフスタイル」が取り上げられ、具体的な予防活動にすぐ役立つテーマであったのと少し異なり、やや研究、特に病理に近い所に視点を置いた研究会を意図したつもりである。シンポジウム4題の他に一般演題が21題あり、朝9時半から午後6時近くまで、熱心な討議が行われた。

研究会のテーマは、「前がん病変」、「先行病変」、「先行疾患」といろいろ考えられたが、とにかく、最も広い意味で取り上げ、内容については、研究会で十分に討論しようという姿勢で臨んだ。

また、会場の都合と、討論を十分にしたいという意図から、できるだけミニシンポジウムの形式をとり、口演の後、再度壇上に演者の方々に上っていただき、まとめの討論を行っていただいた。短い時間の中で討論をまとめて下さった座長の先生方に感謝したい。

テーマの「先行疾患」については、抄録の冒頭にも書いたが、がんの部位別に、実に多くの研究が行われており、その概念も少しずつ異なるように思う。今回は、肝がんの発表が多く、膵、子宮、皮膚についてのものは一つもなかった。今回の研究会のみで結論の出せるものではなく、シンポジウムの一人、福田勝洋先生のご協力をいただいて、専門家にアンケートを送付し、「前がん病変」、「先行疾患」の概念の整理をしていくことを、今

後の仕事のひとつとしていく予定である。

なお、この数年毎年のごことではあるが、本研究会の内容は、「癌の臨床」特集号、臨時増刊号として出版されることになっている。特に今回はテーマにそって、今回発表されなかった先生、会員以外にも数人執筆を依頼した。

### (事務局より)

順天堂大学医学部衛生学教室  
菊地正悟

第14回日本がん疫学研究会は100名を若干上回る方々の御出席をいただき、盛会のうちに終了しましたこと、また懇親会にも多数の方々の御出席をいただきましたことを御礼申し上げます。

今回は演題申し込みが2月末と早かったために、発表の御希望にそえなかった件がありましたこと、またプログラムに数カ所ミスがありましたことを初めとして、行き届かなかった点が多数ありましたことをお詫びいたします。

さて、研究会の準備、実施の裏話を若干申し上げますと、前会事務局をされた札幌医大(当時)の森満先生より研究会の準備、実施などのマニュアルを昨年秋にお送りいただき、教室のスタッフ全員で分担を決めて準備にとりかかりました。1ヵ月前くらいまでの準備は教室のスタッフのみで行いましたが、直前の準備からは、非常勤講師、研究生の方々にも協力をお願いして行いました。当教室のスタッフはどちらかといいますと女性上位?なので、会場準備などには非力なこと、また会当日はスタッフのみではとても人数が足りないこともあり、応援をお願いした訳です。このように今回の研究会は多勢の方々の手によって行われたので事務局といいますと、教室全体である訳なのですが、がん疫学研究会の会員ということで私が本稿を書かせていただきました。

第14回日本がん疫学研究会総会議事録

1991年6月13日(水)、順天堂大学山崎会館(東京)

1、庶務報告：1991年6月1日現在の会員数は273名(幹事数は29名)。第13回日本がん疫学研究会(札幌)の記録集は篠原出版から癌の臨床37巻(1991年)2月臨時増刊号、特集「日常生活とがん予防」(¥4,326)として発刊された。

2、ニュースレターの発刊：昨年度はNo.22-25の4号を発刊。今後も年4回発刊する予定。編集には小川幹事、清水監事が当り、今年度からは清水監事が原稿のまとめを担当する。

3、会計報告：平成二年度の会計収支報告があり承認された。平成三年度から会費増額につき、研究会総会開催の補助金増額と新名簿の作成などが提案され、承認された。

4、役員等の一部改選：昨年度神奈川県がんセンターを退任された井上監事の後任として花井幹事に新監事を依頼、任期の切れる他の幹事と監事は全員任期を更新、井上監事は特別会員

に推薦、新幹事に恒松由記子氏(国立小児病院)と山口直人氏(国立がんセンター)を推薦、以上承認された。

5、次年度の研究会の開催：第15回日本がん疫学研究会の会長大島幹事(大阪がん予防検診センター)から、次期研究会は1992年6月12日(金)に大阪府医師会館にて開催、主題は「がん予防の実践とその疫学的評価」(仮題)と発表された。

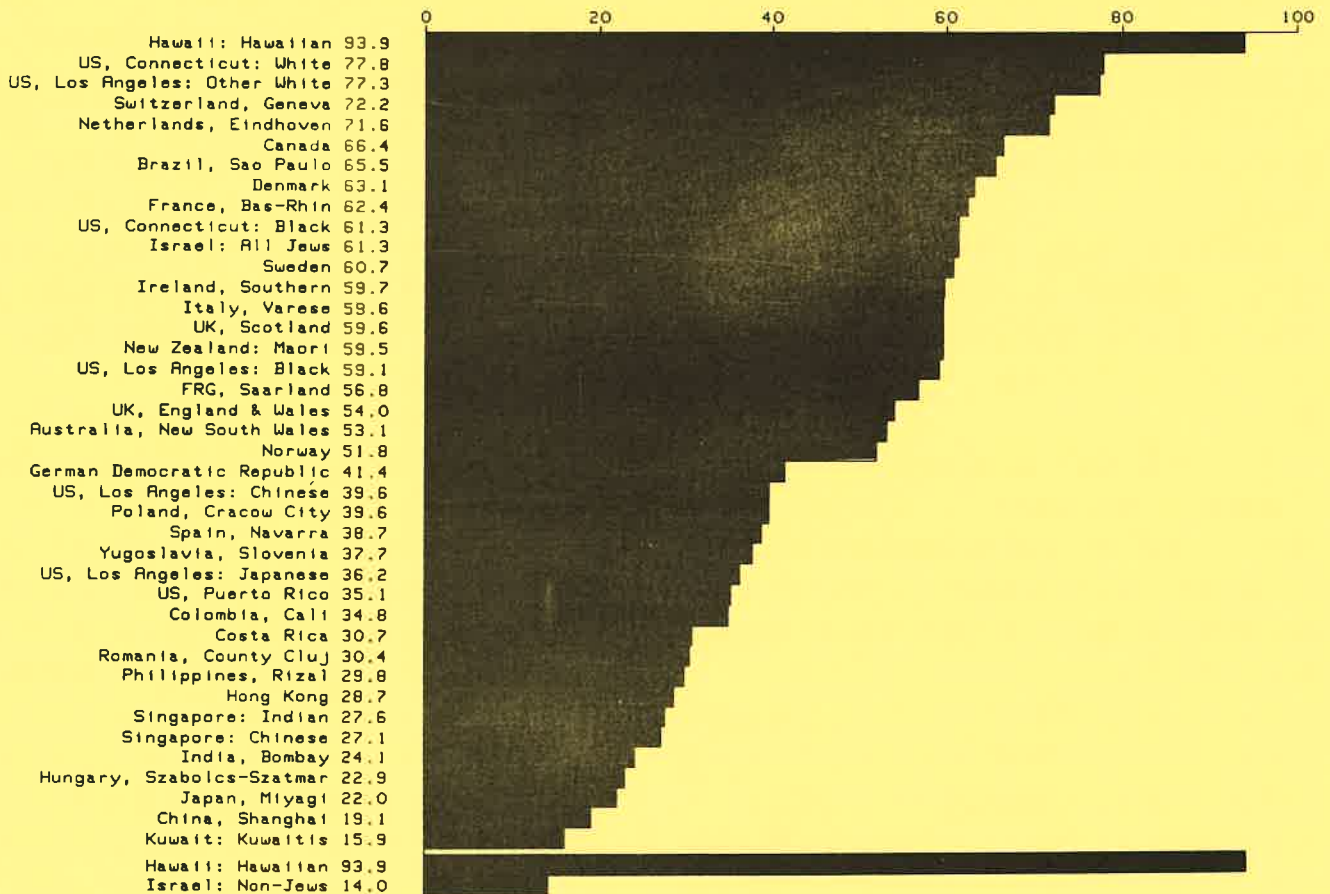
6、日本がん疫学研究会と日本疫学会の関係について：廣畑代表幹事から、本題に関する幹事会の討議内容の要約として、「幹事の6割強は同研究会を発展的に解消すべき(ただし、その期限は各幹事により異なる)、残り4割弱が日本がん疫学研究会を一部改変して存続させるべき」、などの意見であったと紹介された。また今後の方針としては、現時点で全会員の意見をまとめることは難しいので、この重要な議題に関して臨時幹事会を開催し、引き続き具体的な問題まで掘り下げた討議を重ね、あらためて全会員に図りたい、との報告があった。  
(庶務担当幹事、田島和雄)

EpiGraph 4

女性乳がんの年齢調整罹患率 (標準人口は世界人口)

これはIARC発行の"Patterns of Cancer in Five Continents"(Eds. Whelan, Parkin and Masuyer, 1990)からの引用である。この本には、"Cancer Incidence in Five Continents, Vol. V"から一地方に偏ることなく40の地域を選び、各部位のがん罹患率を性別にグラフ化し

て、このような形で示してある。また、最下段の2本のバーは、上記"Vol. V"中の最高値と最低値である。その他に、各地域の上位10のがん部位をパイグラフで示したPart IIと、各部位のがんの地域別、性・年齢別罹患率を示したPart IIIから成っている。



発行

日本がん疫学研究会

事務局 〒464 名古屋市千種区鹿子殿1-1 TEL 052-762-6111

愛知県がんセンター疫学部 気付 振替口座 名古屋1-37001

編集責任者

清水弘之  
小川 浩